

産業支援機関の活用状況について

～ 認知度に比べ活用度が低い産業支援機関～

はじめに

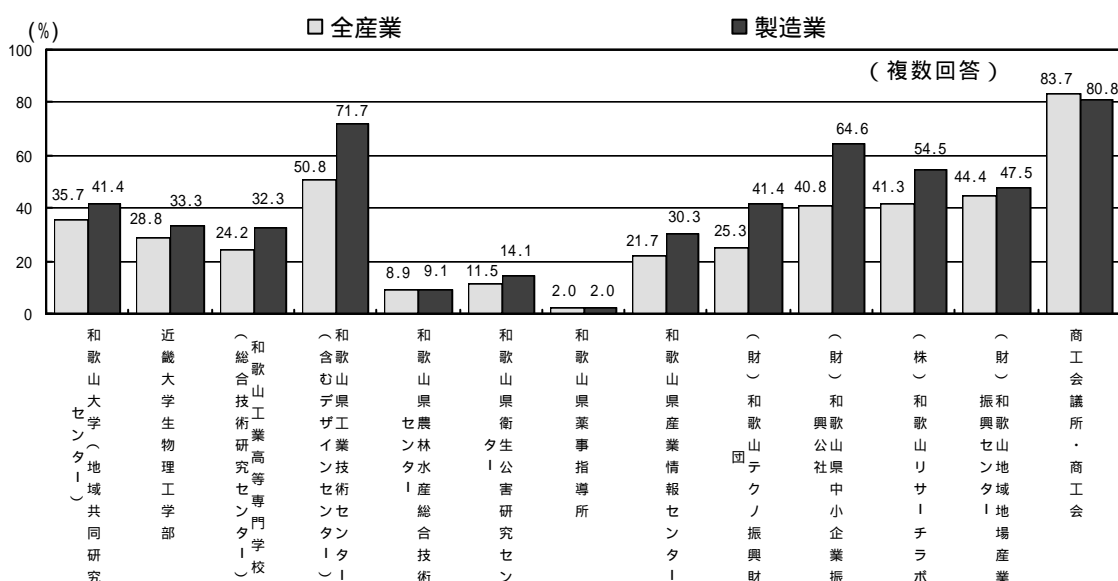
近年、我が国では企業の新規創業と経営革新を支援しようとする動きが活発化しており、産業支援機関を中心とした支援体制が整備されている。本県においても、「わかやま地域産業総合支援機構（らいぽ）」が創設され、各産業支援機関が新事業の創出・育成に向けた支援を行っている。

企業が新技術・新商品・新サービスなどを企画・研究・開発する際に、支援機関の果たす役割が大きくなっていると言われることから、今回、県内産業支援機関の認知度・活用状況とそれらに求められる機能について調査を行った。

産業支援機関の認知度

県内の各産業支援機関について、全産業で「いずれかの支援機関を知っている」とする企業が95.7%を占めており、最も認知度の高いのが商工会議所・商工会で83.7%、次いで和歌山県工業技術センターが50.8%となっている。

製造業で、最も認知されているのは80.8%の商工会議所・商工会で、次いで和歌山県工業技術センター71.7%、(財)和歌山県中小企業振興公社64.6%、(株)和歌山リサーチラボ54.5%となっており、認知度50%以上の支援機関は4機関であった。

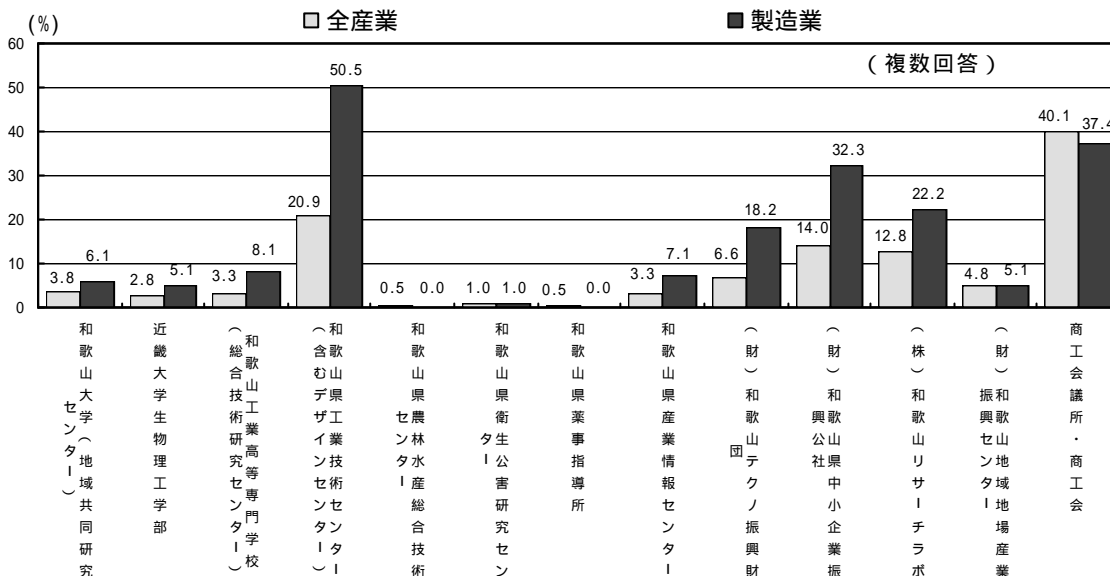


産業支援機関の活用状況

県内企業全産業でいずれかの産業支援機関を「利用・活用したことがある」とする企業は、61.2%となっている。支援機関のうち最も利用・活用されているのが商工会議所・商工会となっており、商工会議所・商工会を除いた場合の支援機関活用経験は61.2%から40.3%と大きく減少する。

製造業で、最も活用度の高いのが和歌山県工業技術センターで、50.5%とほぼ半数の企業が活用しており、次いで商工会議所・商工会37.4%、(財)和歌山県中小企業振興公社32.3%、(株)和歌山リサーチラボ22.2%となっている。近年、産学官の連携とよくいわれ、本県でも研究会等が設置されているが、学術・高等教育機関の活用はあまり高くない。

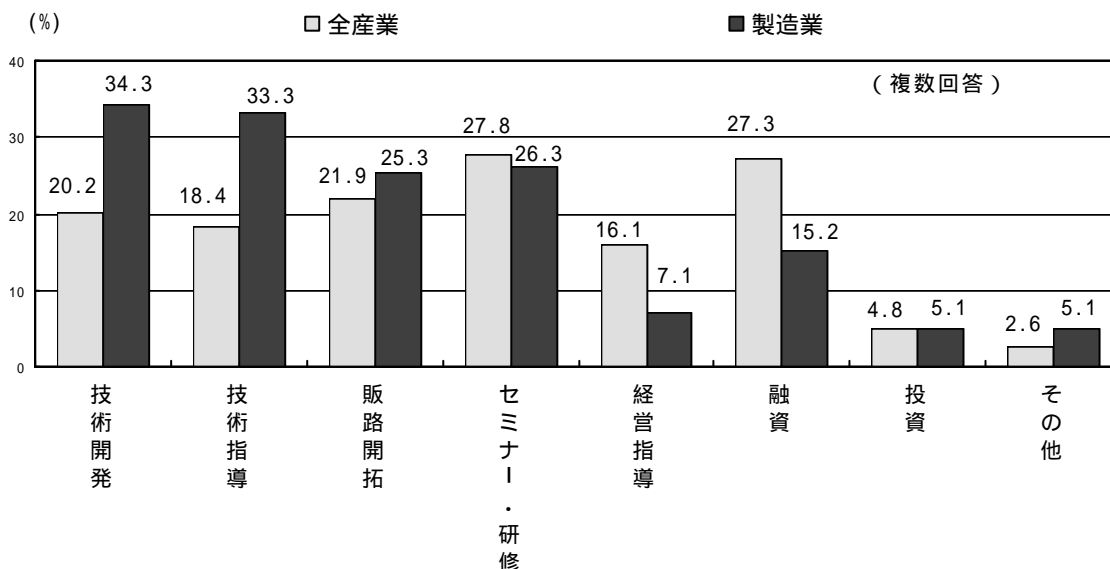
産業支援機関の活用状況は、産業、業種等により差異があり、一部に活用度の高い支援機関はあるものの、概ね認知度と比較して低くなっている。



産業支援機関に求める機能

産業支援機関において充実してほしいと考える機能としては、全産業ではセミナー・研修が最も高く27.8%、次いで融資が27.3%、販路開拓が21.9%となっている。

製造業では、技術開発が34.3%、技術指導が33.3%と高く、新技術・新商品等の研究・開発への支援が求められているという特色が表われた。このような希求が、製造業における和歌山県工業技術センターの活用度の高さに反映されていると考えられる。



おわりに

本県の産業支援機関について、産業、業種等により利用できるか否かということもあるが、概ね認知度に比べ活用は低いものとなっている。しかし、商工会議所・商工会、和歌山県工業技術センターなどは、認知度に対して活用度も高くなっている。

今後、より効果的な支援が期待されるが、利用対象者に対し各機関の機能・役割を明確にし、企業ニーズにマッチした機能提供を充実させていく必要がある。さらに、相談窓口機能、各機関の連携を強化することで、企業経営者にとって利用しやすい支援環境の整備が求められる。